

平成30年度学校評価 中間評価報告

石川県立錦城特別支援学校
校長 宮本 直哉

1 評価の概要

本校は今年度、以下の5点を重点目標に掲げ、取り組みを進めています。

- (1) 児童生徒の主体性を引き出すための授業改善と専門性の向上を図る。
- (2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路支援の充実を図る。
- (3) 児童生徒の安心・安全に配慮した学校づくりを推進する。
- (4) 本校の教育活動の情報発信や専門性を活かして特別支援教育のセンター的役割を推進する。
- (5) 教職員それぞれの立場で働き方改革の意識を理解して取り組みを進める。

中間評価では、以下のような評価を実施しています。

- (1) については、以下の2項目で実施しています。
 - ① チームティーチングの効果的な手法を十分実践しているか。(教員対象)
 - ② 授業参観で授業内容に満足されているか。(学校公開・授業参観参加者対象)

- (2) については、次の4項目で実施しています。
 - ① 錦城版キャリア教育プログラムの個別設定の項目で向上が見られたか。(教員対象)
 - ② 児童生徒のあいさつの仕方がよくなったか。(教員対象)
 - ③ 進路の手引きの内容についてがわかりやすく参考になったか。(保護者対象：2月に実施)
進路の手引きや研修会等により進路情報の知識量が増加したか。(教員対象：2月に実施)

- (3) については、次の2項目で実施しています。
 - ① 学校生活での危機管理マニュアルやヒヤリハット事例、個々の児童生徒の安全に関する配慮事項を考慮して指導・支援を行っているか。(教員対象)
 - ② いじめの未然防止のため小さなトラブルを見逃さずに対応しているか。(教員対象)

- (4) については、次の2項目で評価します。
 - ① 研修会の内容が参加者の特別支援教育の教育実践に「とても役立つ」と答えた割合(参加者対象)
 - ② 各学部が行ったホームページの更新回数(回数で評価)

- (5) については、次の1項目について実施しています。
 - ① 定時退校日を意識して、時間の使い方を改善して業務を行っているか。(教員対象)

2 アンケート結果と分析

(1) 児童生徒の主体性を引き出すための授業改善と専門性の向上を図る。

(1) ①チームティーチングの効果的な手法を十分実践しているか。(教員対象)

①十分に実践している。	30.0%
②実践している。	54.0%
③少し実践している。	14.0%
④実践していない	2.0%

この項目の評価は、チームティーチングにおいて大切にしてほしいことを10項目あげ、実践している項目数が8以上で「十分実践している」、6以上で「実践している」としました。達成基準は「実践している以上が80%」で①+②が84%と達成度判断基準を超えています。しかし、年度途中ということもあり①の評価が低い値となっています。チームティーチングの各アンケート項目を細かく分析してみると全体的に達成度の高い項目が、「授業における各授業者の役割分担が的確に行っている」「児童生徒の様子について話し合いを行っている」でした。また、どの学部においても達成度の低い項目が「児童生徒の個別の目標の共通理解を行っている」「支援内容、評価の仕方を確認している」でした。低い2つの項目については、打ち合わせをしていく中で触れないことはないのですが、とても大切なことですので留意して継続して取り組み、授業改善に努めてまいります。

(1) ②授業参観で授業内容に満足されているか。(参加者対象)

学校公開	授業への満足度：100%
授業参観	事業への満足度：100%

この評価項目では、学校公開や授業参観時に参加された方々にアンケートをとっています。アンケート内容は、「授業内容のわかりやすさ」「教員の児童生徒とのかかわり方」「教材などの工夫」「学習環境」の4点を項目としています。のべ55人の方から回答を得ています。評価は「A：とてもそう思う」「B：そう思う」「C：あまりそう思わない」「D：そう思わない」の4段階ですが、C、D評価はありませんでした。アンケートで問うた項目はいずれも授業改善に関係するものです。今後とも、この結果に満足することなく継続して授業改善に取り組んでいきます。

また、今後の学校公開や授業参観にぜひご参加いただき、ご意見等をお聞かせいただければ幸いです。

(2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路支援の充実を図る。

(2) ①錦城版キャリア教育プログラムを教育支援計画等に活かし、児童生徒一人一人に1つ以上具体的な実践をする。(教員対象)

向上が見られた児童生徒の割合
小学部：93.7%
中学部：64.7%
高等部：86.2%
全体：82.3%

この項目は、教員がキャリア教育プログラムを意識して活用するようにするために設けたものです。教員が児童生徒一人一人のキャリア発達を育成する具体的な実践を行い、個別のねらいに対して向上が見られたかどうかで達成度を判断しました。小学部、高等部については達成基準を満たしていますが、中学部についてはD評価となっています。まだ年度途中ですので、児童生徒一人一人に応じた具体的な実践をより一層続けていきます。

(2) ②あいさつの仕方に見られた児童生徒の割合（教員対象）

小学部	： 62.5%
中学部	： 58.8%
高等部	： 73.3%
全体	： 66.7%

チェックシートを用い5月と9月を比較して、個人の向上の度合いを確認して評価しました。全体では66%なので、まだ、達成基準に達成していません。毎月のあいさつ運動では、全校児童生徒の盛り上がりはありますが、毎月の恒例行事となり、緊張感が薄れてきたのではないかと思います。また、教員がチェックシートの項目を意識して指導する等が足りないと思われます。児童生徒の能力に応じたあいさつをする力は、社会に出る際に必要とされるものです。今後も取り組みを進め、向上したとする割合を増やしたいと考えています。

(2) ③進路の手引きの内容について、わかりやすく参考になったか。（保護者対象）

- A：十分参考になった
- B：やや参考になった
- C：あまり参考にならなかった
- D：参考にならなかった

(2) ③進路の手引きや研修会等により進路情報の知識量について（教員対象）

- A：かなり増加した
- B：増加した
- C：あまり変わらなかった

この2つの項目については2月にアンケートを実施します。

なお、現在、進路支援課において進路の手引きを作成中です。完全なものとはならないかもしれませんが、保護者の方々に必要な基礎的な事項を示すことができるようにしたいと考えています。

(3) 児童生徒の安心・安全に配慮した学校づくりを推進する。

(3) ①学校生活での危機管理マニュアルやヒヤリハット事例、個々の児童生徒の安全に関する配慮事項を考慮して、指導・支援を行っている。（教員対象）

A：とてもあてはまる	22.5%
B：あてはまる	75.5%
C：あまりあてはまらない	1.9%
D：あてはまらない	0%

A+Bの割合が100%には達していませんが、98.1%と高い割合を示しています。しかし、Aの割合がどの学部もまだまだ低い値となっています。また、C評価もありました。今後も危機管理マニュアルやヒヤリハット報告等を十分活用し、個々の児童生徒の安全に関する配慮事項を考慮して各教員が何を行うべきかを十分理解して指導支援を行うよう取り組んでいきます。

(3) ②いじめの未然防止のため小さなトラブルを見逃すことなく対応していた。(教員対象)

A：とてもあてはまる	41.5%
B：あてはまる	58.5%
C：あまりあてはまらない	0%
D：あてはまらない	0%

A+Bの割合が100%に達しています。6月に職員に児童生徒の気になる行動に対して「いじめ兆候チェックシート」でアンケートを行っています。小さなことでも気になるところをチェックすることでいじめにつながるよう取り組んでいることが、この評価となったと思われます。しかし、Aの割合が半分に達していません。今後は、Aが増えるよう、これまで以上に生徒の様子を見守るよう取り組みを進めていきます。

(4) 本校の教育活動の情報発信や専門性を活かして特別支援教育のセンター的役割を推進する。

(4) ①研修会内容が参加者の特別支援教育の教育実践に「とても役立つ」と答えた割合
(外部の参加者対象)

アセスメント講習会(相談支援課)	参加21名
とても役立つとの回答	76.2%
ICT活用研究会(チームICT)	参加6名
とても役立つとの回答	66.7%

アセスメント講習会は、専門相談と呼ばれる教員が、地域の学校等へ支援する以外に、本校の教員の専門性を活用した取り組みを発信することができるのではないかと考えて実施した研修会に関するものです。この講習会については、実技を設けたことで困っている子どもの様子を体験し今後の支援に活かせるとの回答が多かったこともあり達成基準に達しています。今後も地域のニーズに合った研修会を実施していきたいと思えます。ICT活用研修会では、紹介した機能、アプリをぜひ使ってみようという意見が多かったのですが、環境が整っていないためすぐに試してみることは難しいようでこの結果になったと思われます。どの講習会も「役立つ」との意見が100%であったことから今後もこのような研修会を継続して取り組んでいきたいと思えます。

(4) ②各学部のホームページの更新回数(9月25日段階の更新回数)

- ・小学部 20回
- ・中学部 17回
- ・高等部 17回

1年を通じた取り組みです。学部だけではなく、よさこいや学校行事などの更新も継続して行っています。ホームページを閲覧する人の立場に立ち、適時性のある情報発信にこれからも努めていきたいと思えます。昨年度目標回数の更新に達しなかった反省をもとに、行事だけでなく、日常の教育活動も発信するようにしました。本校への理解啓発が進むように後期には、前期以上に更新に努める必要があると思えます。今後とも、ホームページを閲覧する方の立場に立ったアップに努めてまいりますので、ホームページに関するご意見等もよろしくお願い致します。

(5) 教職員それぞれの立場で働き方改革の意識を理解して取り組みを進める。

(5) ①定時退校日等を意識して、時間の使い方を改善して業務を行っている。(教員対象)

A : とてもあてはまる	15.4%
B : あてはまる	63.5%
C : あまりあてはまらない	21.1%
D : あてはまらない	0%

達成基準は、A+Bの割合が100%です。全体として78.9%とまだ達成基準に達していません。特に小学部、高等部ではあまりあてはまらないとの回答が3割います。職員の勤務時間調査では、4月、5月は、まだ昨年度よりも多かったです。8月、9月は減少傾向にあります。「メリハリをつけて仕事をする。」「仕事の優先順位をつける。」など時間の使い方を意識して取り組むようになったとの意見がある一方、「業務が多く勤務時間内に終わらせることは難しかった。」といった意見も多く見られました。業務の見直しなども含めて取り組みを続けていきます。